

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

情 報 局 編 輯 十 月 十 八 日 第 三 三 四 號

週 報 寫 真

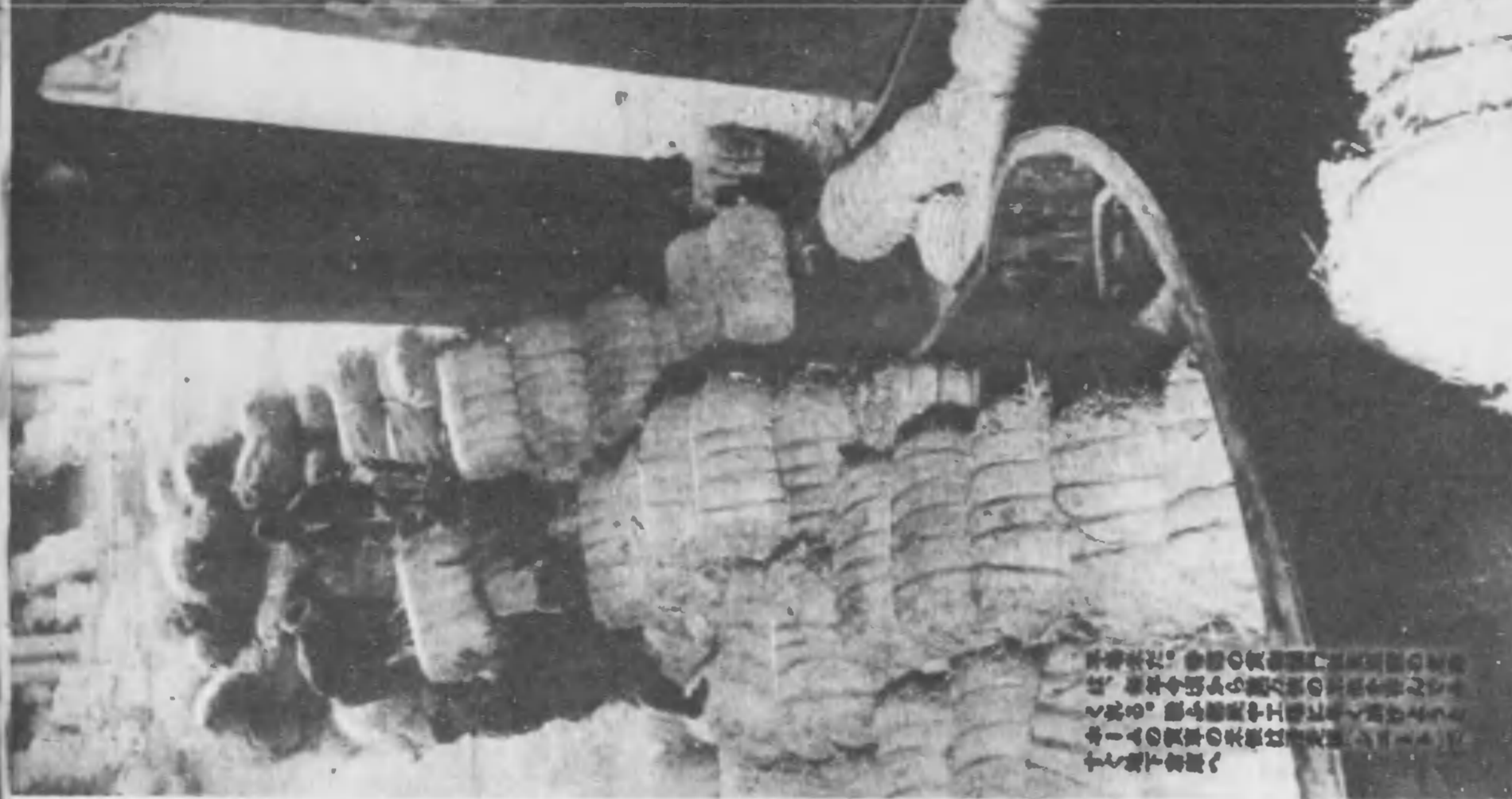


新らしい風景も
できあがった
「おあんと短
くど」
橋本 義山 村

時の立札

秋風が身にしみる頃に
冬の炭のことを考へる
だが、ぐちをこぼす前に
炭を焼く人々や
運ぶ人々の労苦を思は

旅行をもく博まへ



石炭の積み出し場。輸送の増進が重要である。輸送の増進が重要である。輸送の増進が重要である。

などは特に急送が必要で、それはこれら生活物資は一定期間内に必ず一定量の輸送は完了しなくてはならず、特に食料品は腐敗し易いからです。しかも以前と異つて生産地と消費地の間に距離が少なくなつてゐますから、この距離を縮短は重要視すべきでなくてはならないのです。

一方、生産に際してゐる生産者の労働もできるだけ軽減しなくてはなりません。現在通商手続はこの十年間に十倍近く増加してゐます。

以上がごく大づかみに大體の現状ですが、この困難な状態を打破し、一層輸送力の増進を図るため国策では、その技術、資料、勢力の一切をあけて努力してゐます。即ち現在もつてゐる輸送の標準を最高度に持ち、必要輸送の増進をはかる一方、旅行の制限や時刻の改正などを行つて、一層重要輸送の完備に努力してきてゐるのです。しかし列車を増大してゆく輸送力の増進に必要のないやうにするには、なほ一層の努力と調整が課せられねばならぬのはいふを免れぬことです。

去る十月十一日より全国の列車の運行時刻を改正実施したこともまた、「急送輸送」とは一層の完備を期するがためであり、

今度の時刻改正の趣旨は次ぎの通りですが、改正時刻表については十月十二日発行の「運賃」四一六號を参照して下さい。

必要列車を増強しました。即ち貨物列車では上り十五本、下り十三本（合せて約二万八千本）普通列車では二三本（二千四百本）の増強をいたしました。

普通旅客列車は、これを縮減したり、また急行列車の運行距離の一部を普通列車にしたりしました。また主要線の長距離列車の一部、輸送力に及ばない列車の一部を取消しました。また貨物列車でも利用効率の低い線路の一部は取消しました。

また機関車を活用し、列車の遅延や事故を防ぐため旅客列車の速度をおとします。到着時刻は従来より延長されました（例、はよりで東京—下関間は四九分、東京—大阪間は三分五、大阪—下関二分五）。

その他燃料節約のため機関車を減らすとか、一部の駅では急行列車の停車回数を減らすとか、各駅の停車を簡便にしました。

この改正の結果は、旅行は一層困難となつてきましたが、しかしこれによつて祖國の勢力はますます増



大なることになつたのです。不必要な旅行は假につゝしむとともに、すんで決戦輸送に協力せられるやうお願いいたします。

運輸通信省鐵道總局

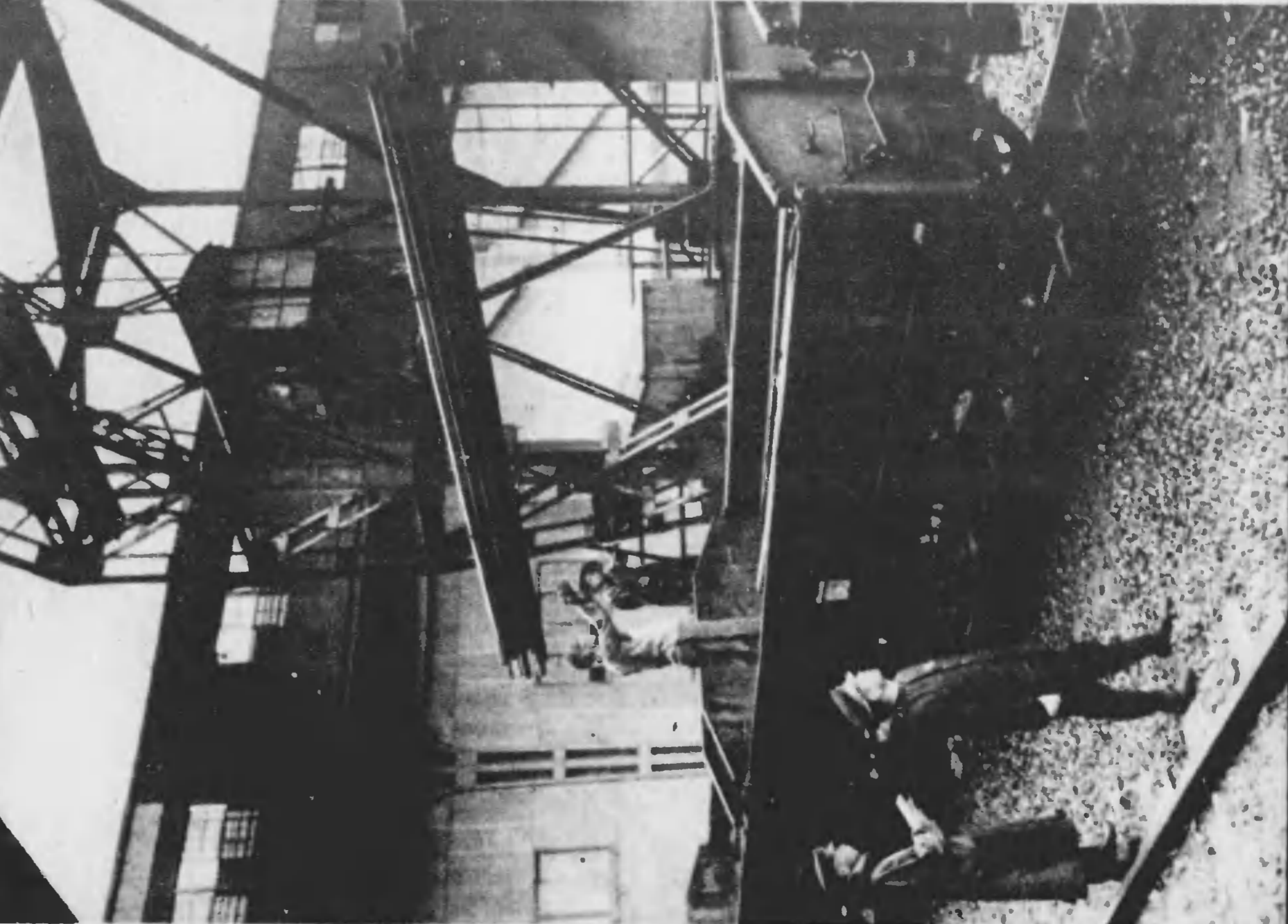
□ そろそろ旅行は減らされてゆく。一層早く生産工場とつなげねばならない。輸送力はよりよつて一日もなすつてゆく。

決戦輸送と時刻改正

輸力の基礎として解は陸上輸送を一手にひきあげて頑強な大規模では、決戦を目途にひかへて更に重い負荷の突進に突入しつゝあります。最近における戦争物資の輸送は實に驚くべき重量にのびつてゐます。

いま石炭の急増増産期にあつて石炭山では採炭工が猛烈な取組をつづけてゐます。國策でもこれらの努力を一層早く生産工場にらつすべく石炭輸送に専任なのですが、これを輸送の面からみると輸送が最も輸送物の三分の一に相当するほどの多量さであります。そして石炭の産地は九州とか北海道なのに、その消費地は内地の中心地が多いため、輸送の距離は著しく長いのです。従来石炭のやうな大量で、しかも輸送の距離の長い貨物は、主として海上輸送によつてゐたのですが、これらの船が多く戦時區域に活躍してゐる今日では、國策が代つてゐるのですから陸上輸送が極度に増進を期してゐるのも當然なのです。

前以上の石炭とか鐵礦石とかアルミ原礦とか直接戦争の素材となるものほかに、また國民生活の必需品も絶対に確保しなくてはなりません。米や麦のやうな主要食糧をはじめとして、蔬菜とか薪炭、砂糖



急ぎの貨物は早くして、すくなくともこの運送に必要である。輸送の増進が重要である。輸送の増進が重要である。

召喚くそくそ 金白了こざめ戦決



東京商工経済会では、全会員の献金供出を促すため白金の献金日を定め、その第一日を十月三日行つた。徳山会長はじめ多数の供出があり買上額等は三万圓を越えた（中央後部は徳山会長向つて立つ）
 徳山の買上額受取の一つ新堀三浦と朝早くから詰めかけておる人々

大嘗、ナニヤンの悲しみを感え、復讐の鬼と化しつゝある一國民は、その戦場において、その身分に應じて、黙々挺身の決意を固めてゐるが、とりわけ英米軍艦の兵器を生む白金の供出については國民の熱情は正に沸騰しつゝある。切迫してゐる決戦の時、白金供出に躊躇を許さぬ。マリアナ復讐の誓ひは最後の一片まで、白金を決戦のお役に立てよと要求してゐる。さうだ。最後の一片まで、そして一刻も早くかくて陣をあげての白金供出は、ときによまれ、ときによまれ、美談まで傳りまきて、日を迫らてあがる戦果と共に國運奮闘を鼓舞させてゐる。なほ白金は十月十五日から施行された軍需省令「白金製品の運搬に関する統制に関する件」により強制買上となり、運送中は期限は十一月十五日までとなつた。しかし、強制買上を持つまでなく至金供出されることが望ましい。

十月九日、日本赤十字會では利左衛門門下、梅五郎門下、吉右衛門門下を始め餘部以下の供出を促す供出を行つた。





山麓の谷間に散々と築かれた人々の小さな家々。一カ所に山の頂上まで（上野山）

炭

家庭にも工場にもなくてはならない木炭。出炭や焼炭から、炭塊、煉炭、備工業用炭まで使われ、石炭や石油の代用燃料として重要視されている木炭。かつては

その他の関係で若干生産に^比差を来してをり、また燃費の問題もあつて多少配給量が遅れる場合もあり、また国防警備方面によりむけるためにやむを得ず配給量を減らす場合もあることを見ておかれはならぬ。しかし政府はあくまで本年度の生産計画量の確保をめざして最近

あるべきものの燃費の大切。この炭の炭ではついでに燃費を減くはならないと努力すること

はた人焼炭

死地に産出

村山要木新

家庭にも工場にもなくて
 はならない木炭—炭を焼く
 から、交通、建設、木工工業にまで使
 はれ、石炭や石油の代用燃料として重
 要な役割を果してゐる木炭—おとそ
 人の住む所には一番必要な木炭—こ
 の木炭はあつては人の住まないやう
 な深山でつくられる
 町や村から何里も入つた深山に、大
 量の産出を待つ人々の噂をまづ思は
 なくてはならない。手不足を忍んで伐
 木から運入代出づまで一切を無事
 に仕上げて、さらにこの何方かの
 炭を運んで運出さなくてはならな
 いのだ。このために近在の青年團や學
 徒が助勞奉仕に奉い汗を流し、殊に最
 近は町や村の頭等までが賑くまじい
 盛況をつよけてゐる
 政府は本年度の生産計産量を二百六
 十萬トンとしてをり、その年は以上
 が家庭用の木炭として配給される。配
 給量は家庭の者、またはカスの有無、
 都市と農村、産出地によつて一定して
 はゐないが、平均一産物につき、六俵
 配にあつてゐる。しかし今年は大

その産出の困難で若干年度に欠けを来してをり、また産出の困難もあ
 つて多少配給期が遅れる場合もあり、また国防需要方面によりむけ
 るためにむねを待た配給量を減ずる場合もあることを考へておかれ
 ばならぬ
 しかし政府はあくまで本年度の生産計産量の確保をめざして最近
 新炭産出に関する補助制度を設け、原木の確保は有林立木の買上、
 平林の伐採促進、特殊林産物の無用所除、代用燃料の増産、炭質
 検査に対する高率助成その他各種補助金の増額及び山元における新
 炭の買上など、あらゆる方策を講じて懸命の努力をつよけてゐるの
 である
 従つて国民はこの各の木炭事情について静かな心配を失つた行
 動をすることなく、戦争完成のため多少の不便を忍んでも、配給や
 輸送に協力しなくてはならない
 × × ×
 米一俵とれない高山地方で、ひん、そばがきなどを食べて、鹿
 茸にもあけず、また雪深を履きながら、おれのおを忍びながら一年
 中風塵になつてたつ炭と取組んで、ひたひきを努力を續けてゐる
 木炭産山村は、昨年度第一の生産量をあげた
 この村に駐在する岡田八郎炭査員は、村をあげての取組ぶりを
 「本年度の産山の割當量百二十八万三千貫は九月中まで十三万増
 といふ驚ましい成績です」と語る
 しかしこゝにも人手不足、資材難など増産を阻む困難は多い。だ
 が、岡田さんは日精炭業、炭産連盟、常会と、朝から晩まで山中の
 現場をかりやり廻り、何くれと生産者のよき相談相手となり、村民
 もまた「調をあげて戦争だ」と思惟を鼓舞して、日本一増産の
 目標へ文字通り各村とあつての努力を續けてゐる



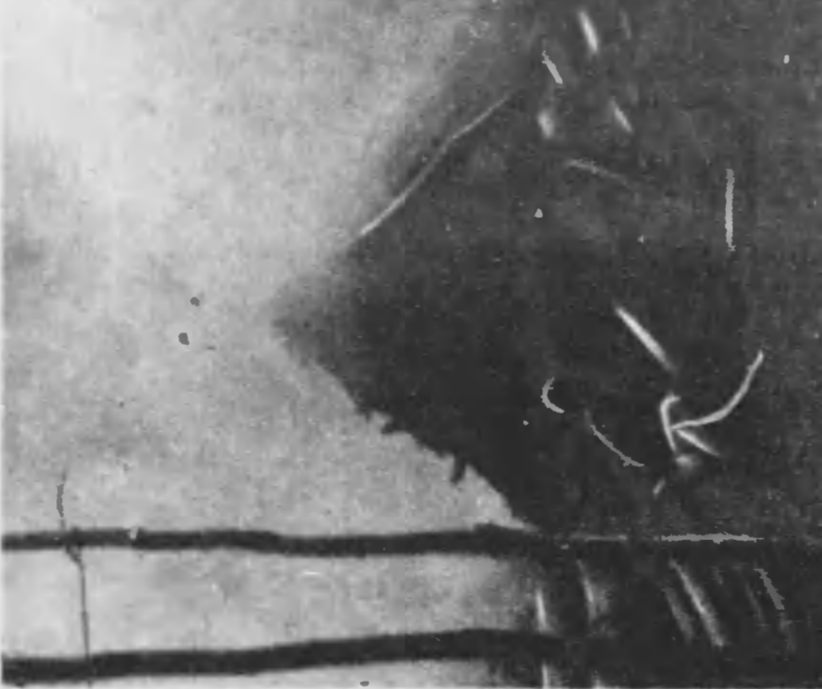
この山からの産出の少く、
 の産出を待つ人々の噂を
 思はなくてはならない

この山中の山小屋は立派な炭焼きだ
 □ 午膳は終り、午後に炭山で炭焼作業。今日は伐採が、力がある、調がくるが「何とぞ！」



あつたのほくを炭炭として運ぶ炭焼作業—生産者の調量（炭焼量はカス炭を作つ
 て炭田）を昨年より、一産とつち一産を買つたといふ山田炭焼場

□ 木入れ—生木がいろいろ、ひまつたい、畑中汗と涙でくしくくだ



炭出し—産の中が冷えないうらましく炭材を詰めなければならぬ
 □ 一産を冷やせば三割も減産するので避はれるやうな仕し



この第一の炭産地、東武新井炭産地の炭
 だ。炭山に山とつまれている木炭、三十キロ
 重を千ともしも運ぶには、と木から木へ運
 ぶのは大変だ、大の男も運まけだ。五人で
 一日五千重ずつのけるといふ炭女をばい
 つてとしく木炭は運ばれてゆく—丁場
 へ—炭焼へ—





「お楽しみ大会」の
の人々は、歌謡をあげて出陣する
つぎの準備に専念する隊員たち



「お楽しみ大会」の
本日の目玉は、何れも
「お楽しみ大会」

職員の労苦にたいへん、みんな明るく笑って、増進を喜びなが
うと、東京臨海局管内では赤十字にはもつてこい、高橋隊員を
楽し、各隊員に休養期間を設けています
まづ連絡も電話一本で「お楽しみ大会」の出陣があると、待ち構へた
隊員たちはトラック二臺に舞臺やらマイクやら大道具、小道具、樂器な
ど大急ぎで積み込み、職員の現場へ直行します
到着するや、舞台を築き、隙間に野外舞臺を急造し、幾多のきで、何
と二時間半の晴るいお楽しみ大会舞臺の幕は開かれるのです
一方、待ち構へた本隊では隊長さんの命令一下、およそ手の空ける人
たちは、ニコニコ顔で舞臺の側に集り、隊長もらちつれてシートを敷
き、明るい舞臺を二階席から爆笑の連続です。日頃はとても
忙しい隊長さんや役員さん、それから切符切りの職員さんも一度はドラ
と笑ったり、感心したり、われを忘れて拍手喝采のひとときを喜びます
舞臺が築くと職員は僅か二十分間のうちに再び道具をトラックへ積み
込み、隊員たちの見送る時潮の聲に耳を借しきながら、水色の舞臺と明
朗なトラックを離れさせます

「われを忘れて爆笑
と拍手をあくる
横二十メートル、縦十メートルの舞臺
築き、八重葎のガク屏をのぞけば……」

